古豪復活へ 全員野球

高松第一高校

（高松市）

まなビバ！ 教育2014

高松市郊外の市営運動場にバスが着くと、ユニホーム姿の高校生が走り出てきた。

「お願いしまーす！」

グラウンドに入り、すぐに打撃練習の準備を始める。監督が到着する頃にはすっかり練習の準備が整っていた。

市街地にある高松第一高校は敷地が狭く校内の練習場はブルペン2枚分だけ。39人の部員は毎日、バスで30分ほどかかる市営運動場まで移動する。6限授業の日は午後4時ごろから、7限授業なら5時ごろから練習開始。学校の決まりで午後7時過ぎには帰路につく。照明設備はなく、日の短い冬場にはかすかに照らされる街灯のまわりでゴロを捕る練習に取り組むという。

集中力と主体性で短い練習時間を補う。学年を超えて仲が良く、普段は和気あいあいとしている選手たちは、練習場に入ると表情が引き締まる。球拾いも全力疾走。暗くなってからの片付けでも、練習場にはボール一つ残さない。打撃練習のための外野守備でも、内野手は内野守備を意識した捕球を心がけるなど、細かい部分にも工夫を凝らす。

集中力は勉強にも発揮される。3年生12人全員が「現役で国立大学合格」を目標に掲げ、練習後は塾に通う生徒も多い。家での勉強に疲れたら、体幹トレーニングで気分転換する。パスの中で参考書を開く選手もいる。「志望する大学に行く。野球を言い訳にしない」。田中重行監督の言葉通り、卒業生の多くは志望大学への進学を果たしている。

キャッチフレーズは「全員野球」。飛び抜けた選手がいない分、それぞれの個性を伸ばし、お互いの足りないところを補い合う。控え選手も練習の機会は平等だ。練習には不利なパス移動も「全員野球」にはプラスと捉える。「1人遅れたら全員遅れる。自分中心にならず、自然とまわりを考えた行動をするようになる」と浜本拓真主将は話す。

1949、51年には、「怪童」中西太選手の活躍で全国選手権4強入りを果たした古豪も、1972年以来全国の舞台から遠ざかっている。

新メンバーで迎えた昨秋の県大会は3位。四国大会へ出場した。1回戦を突破し、準々決勝で強豪・明徳義塾（高知）と戦った。0－8と完敗だったが浜本主将は「全国のレベルを体感して、甲子園で戦いたいという思いを強く意識するようになった」という。

練習場に恵まれなくても、勉強との両立が大変でも、目標はあくまで「甲子園出場」。怪童の母校は、全員野球を掲げ、この夏42年ぶりの大舞台を目指す。

（初貝翔）

合言葉は「全員野球」。個性を大切に野球を楽しむ＝高松市三谷町の市営運動場

学校紹介

1928年、高松市立第一中学校として創立。48年に学制改革で現在の校名となった。現在、県内で唯一の市立高校。全校生徒は906人（2014年5月1日現在）。

県内有数の進学校で、昨年度は延べ144人が国立大学に合格している。普通科の他に音楽科があり、吹奏楽部や合唱部は全国大会の常連。学校があるのは高松市中心部の桜町2丁目。今年4月には校舎を高層化し、野球部の練習場を確保する改築案が市議会で示されている。

あのとき・あの試合

「怪童」中西擁し4強に

1951年の第33回全国選手権大会1回戦、高松一は岡山東を12－3で破った。4番の中西太は7回にランニング本塁打を放つ＝写真。中西は2回戦もランニング本塁打で試合を決めた。

準決勝の相手は平安（京都）。0－4で迎えた9回裏、先頭の原口明雄が敵失で出塁。中西のエンタイトル二塁打を含む3安打の猛攻で1点差に迫り、なお2死満塁と一打でれば逆転サヨナラの好機をつくったが、あと一歩及ばなかった。

次回（6月3日）は高知高校です。

白球に聞け

下積み練習、基礎鍛える

プロ野球の西鉄で活躍　中西 太さん（81）

——高松での思い出は。

戦後の壮絶な時代だった。運良く（高松一高の前身の）高松一中は焼け残って、早くから練習ができた。進駐軍がやってきて真っ白いボールで野球をやる。隣の畑に入ったボールを探して、彼らが帰った後にキャッチボールをしていた。栗林公園で合宿もしたよ。

——1年生の選抜から計3回、甲子園に出場しました。

球場がすり鉢型でね。大勢の観客でスタンドが白く見えて、ボールが見にくかったなあ。行くたびに緊張したね。

——3年生の夏には2試合連続のランニング本塁打。「怪童」と呼ばれていました。

足の速さは小学生のときから県で一番だった。「怪童」は人相が悪かったから。いまだに色紙に「書いてくれ」って言われるけど、80過ぎて「怪童」ってのはちょっとね。

——どんな練習をしましたか。

私の代が旧制中学の最後の入学生だった。中学校野球大会がなくなって、中学時代はずっと下積み。先輩の打撃投手とかキャッチャーとか。そこで基礎ができた。

——プロ野球ではコーチを長く務められました。

時に非情に徹する監督より、選手と一緒に体を動かす方が合っていた。信条にしている言葉がある。凡庸な教師は唯喋るだけ▽良い教師は説明する▽優れた教師は自ら見せる▽そして偉大な教師は心に火を付ける。押しつけはいけない。一緒の立場にならないと。これは今の高校野球の指導者にも伝えたいですね。

——高松一高の現役球児たちにメッセージを。

勝つ負けるはともかく、自分にできることを見極めて最大の努力をする。そうすれば野球に限らず、いつか導いてくれる。三原脩さんや水原茂さんに代表されるように、野球が強かった県である、街であるということは誇りに思って欲しいですね。